

「新時代とやまハイスクール構想」基本方針

～学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり～

(概要版)

I. 令和20年度までに実現を目指す県立高校の姿

1. 県立高校を取り巻く状況の変化

社会の変化

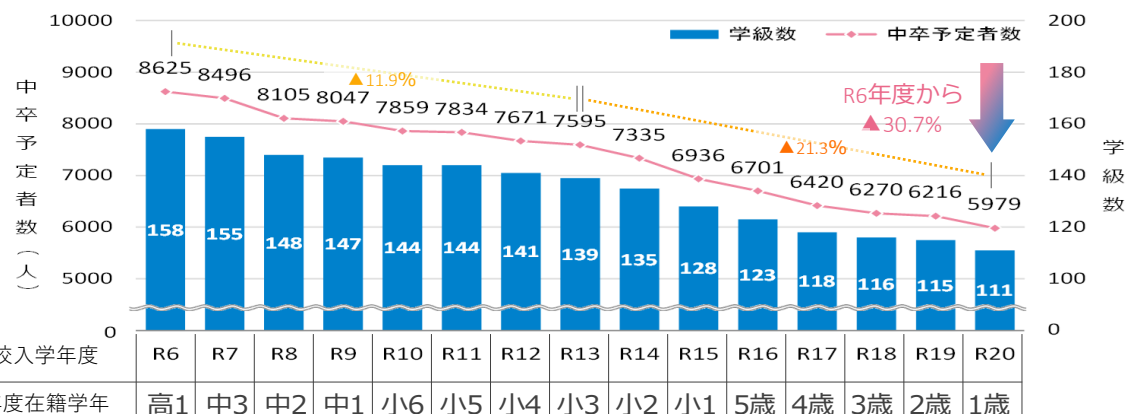
科学技術やグローバル化の進展、
人口減少の進行等

大学の変化

入試方法の多様化

生徒の変化

- 興味・関心・進路希望の多様化
- 多様な教育ニーズへの対応
(不登校生徒、外国籍生徒、特別支援教育など)

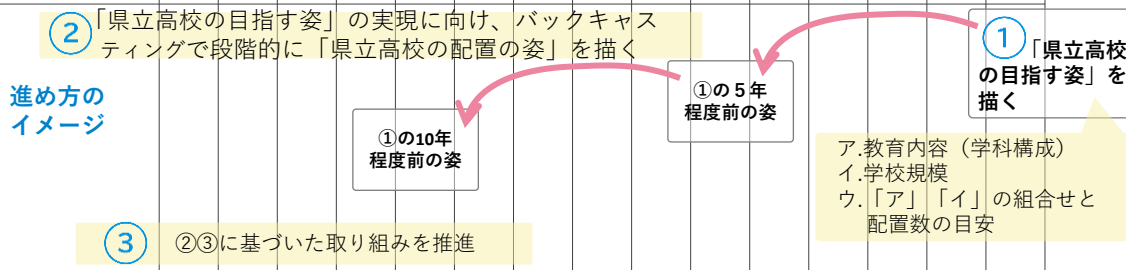


今後の予測が困難な
新たな局面の到来

高校生が明るい未来を描き、
夢を叶えることができるよう

県立高校における 教育のあり方

を考える必要がある。



2. 県立高校の基本目標

基本目標

新時代に適応し、未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、様々な人々と協働して社会参画できるよう、個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、「ウェルビーイング」の向上を図る。

全ての県立高校(全日制)を再構築し
新しい学校を開設する

新時代とやま ハイスクール構想

3. 新時代とやまハイスクール構想

(1) 新時代とやまハイスクール（「新時代HS」）の開設

新時代HSは、基本目標の実現に必要と考えられる教育内容(学科構成)を組み合わせた大規模・中規模・小規模の学校で構成する。



(2) 教育内容（学科構成）

区分		教育内容	「様々なタイプの学校・学科等」との親和性			
			中高一貫 教育校	国際バカリア 認定校等	外国人生徒 特別枠	全国募集
普通 系 学 科	①スタンダード	共通教科の学習を主体として、学校の状況やスクール・ポリシーに応じた教育課程の編成				
	②STEAM※	卒業後の高等教育機関での研究等を視野に入れた探究活動や教科横断的な学びを実践し、問題解決能力や創造力を育む。	○			
	③グローバル	国際感覚を持って海外と関わる人材を育成するためのグローバル教育を実践する。	○	○		○
	④未来創造	スポーツや芸術文化、データサイエンスなど特色ある普通系専門科目を重点的に学び、部活動の強化も図る。				○
	⑤地域共創	地域の企業や高等教育機関等と連携した教育活動を展開するなど、独自性のある教育を実践する。				○
	⑥エンパワーメント （自己発見）	様々な理由から義務教育の内容について学習不足である生徒等が、基礎学力を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育むことができる教育を実践する。			○	
⑦総合学科		入学後のキャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路に合った学びを提供する。 普通教育と専門教育を選択履修することができる。			○	
⑧職業系専門学科		1年次から職業系の特定専門科目を開設し、進路を見据えた専門教育を実践する。				

※STEAM：Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(リベラル・アーツ)、Mathematics(数学)の5分野の学習により、問題発見・問題解決に生かしていくための教科横断的な教育

(3) 学校規模

学校規模 学年定員	大規模校 (320人以上)	中規模校 (121～320人未満)	小規模校 (120人以下)
設置のねらい	■ 令和20年度以降も見通し、県内の拠点校として、現在の最大規模(320人)以上の大規模校を設置する。 ■ 複数の学科が併設され、多くの科目から選択履修でき、多様な考え方に接することで他者と協働して社会参画できる力をより高める。	■ 中規模校として、121人～320人未満の学校を、県内にバランスよく配置する。 ①現在の平均的な学校規模(約180人)よりも大きな学校では、教員配置及び開設科目、部活動等を充実させ、多様な仲間と協働的な学びを実践する。 ②平均的な学校規模よりも小さな学校では、将来にわたって生徒から一定のニーズが見込まれる教育活動を展開する。	■ 小規模校ならではの特色ある教育活動を展開する。 ■ 長期的なニーズや、通学時間の観点も踏まえた地域バランスなどに配慮し、生徒の選択肢を確保する。
施設等	■ 授業の展開等を考えると、現在の高校施設では運営が難しいこと、令和20年度以降も見据え、県内の拠点校として長期的に使用することなどを考慮し、新築等に対応する。	■ 現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設設備の改修等を行う。	■ 現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設設備の改修等を行う。

(4) 教育内容（学科構成）と学校規模の組合せ、配置数の目安

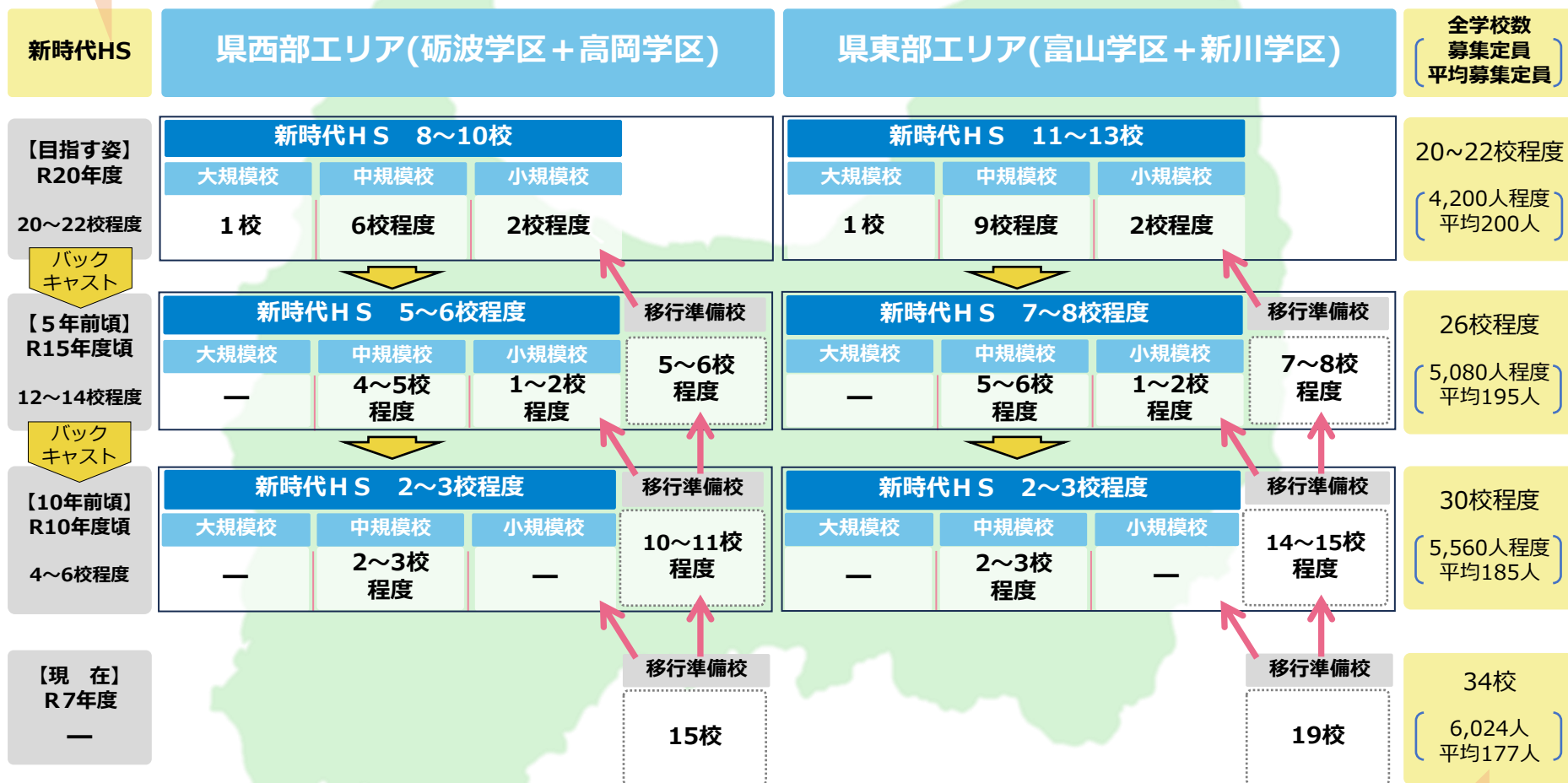
学校規模			大規模校 (1 学年320人以上)		中規模校 (1 学年121～320人未満)				小規模校 (1 学年120人以下)		
学科の構成パターン			(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)
学 科	普通系学科	①スタンダード	○	○		○		○			
		②STEAM	○	○	○						
		③グローバル	○	○	○						
		④未来創造	○	○		○		○		○	
		⑤地域共創	○	○		○		○		○	
		⑥エンパワーメント(自己発見)				○	○				
	⑦総合学科						○				
	⑧職業系専門学科			○				○	○		○

全県 (20～22校)	募集定員目安 4,200人程度	2 校	8校程度	2校程度	2校程度	3校程度	4 校程度
			1 5 校程度				
県東部エリア※ (11～13校)	募集定員目安 2,520人程度 (60%)	1 校	9 校程度				2 校程度
県西部エリア※ (8 ～10校)	募集定員目安 1,680人程度 (40%)	1 校	6 校程度				2 校程度

※ 県東部エリア(新川学区、富山学区)、県西部エリア(高岡学区、砺波学区)

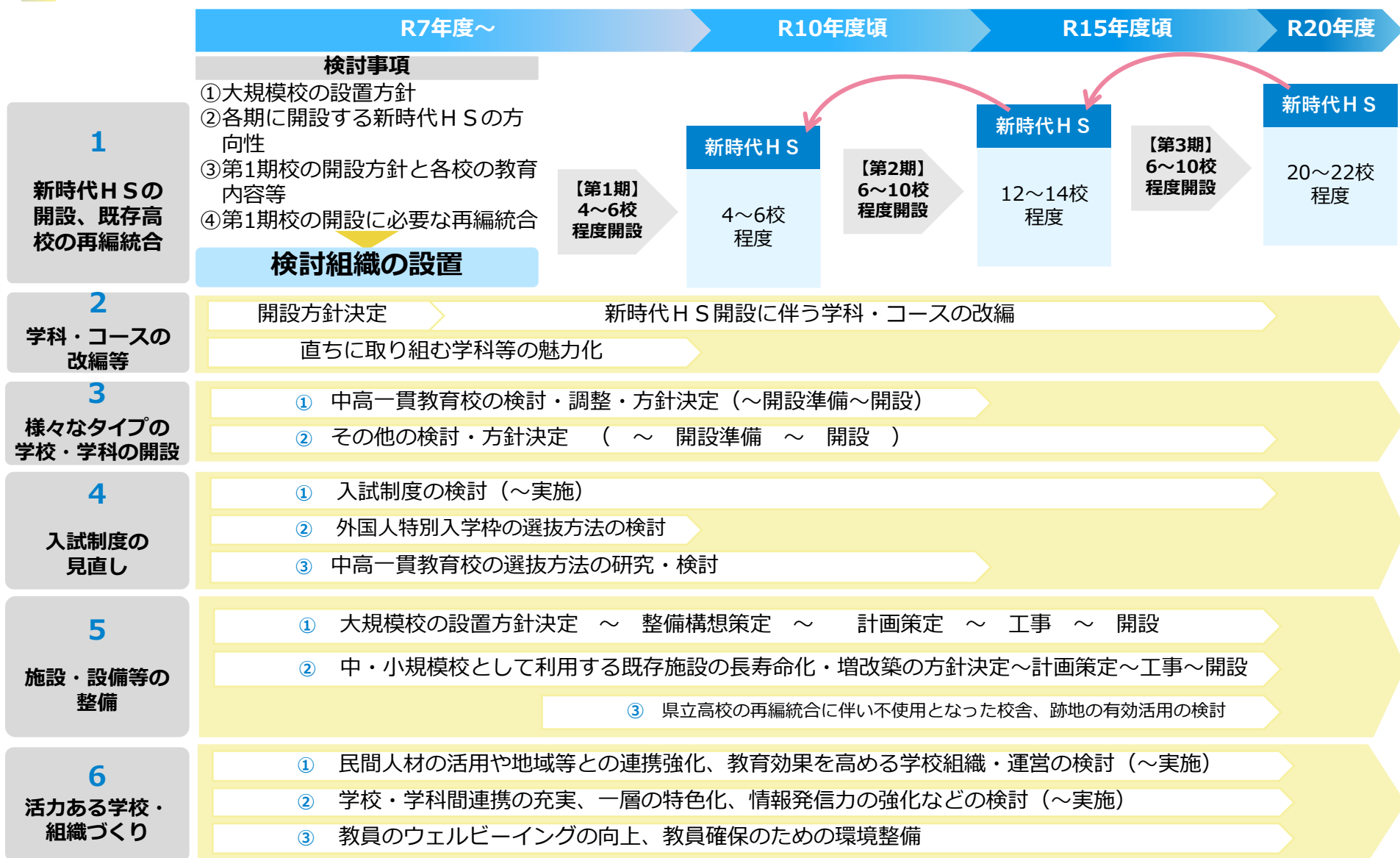
Ⅱ. 「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」

- ①令和20年度に20校程度の新時代HSを設置
- ②バックキャストでその5年前頃、10年前頃までに目指す「配置の姿」を描く。

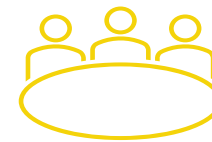


- ③現在の全ての県立高校(全日制)を「移行準備校」に位置付け、学科改編等の準備を進める。

Ⅲ. 「目指す姿」の実現に向けた検討方針



「新時代とやまハイスクール構想検討会議（仮称）」の設置



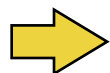
＜メンバー構成＞

- | | |
|-----------|---------|
| ①知事（会長） | ④経済界の代表 |
| ②教育長、教育委員 | ⑤学校関係者 |
| ③学識経験者 | ⑥保護者の代表 |



＜検討内容と進め方＞

- ①大規模校の設置方針（学科構成、設置場所など）
- ②各期に開設する新時代H Sの方向性



「新時代とやまハイスクール構想」実施方針とりまとめ

- ③第1期校の開設方針と各校の教育内容等
- ④第1期校の開設に必要な再編統合



「第1期実施方針」とりまとめ

「新時代とやまハイスクール構想」基本方針

富山県のホームページでは、県立高校の目指す姿に関する情報を掲載しています。

<https://www.pref.toyama.jp/300203/kurashi/kyouiku/gakkou/kihonhosin/kihonhosin.html>

詳しくは
こちらから

